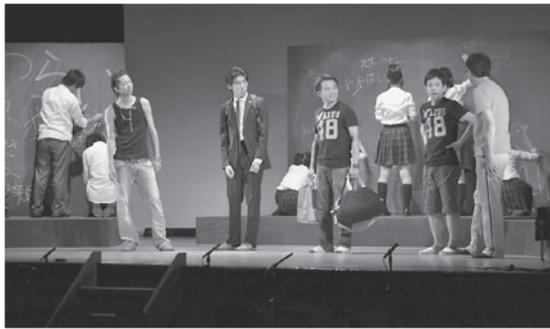


## コーヒーブレイク



TOBEN TVで動画配信中  
<http://www.toben.or.jp/>



# メイキング・オブ「もがれた翼」

会員 馬淵 泰至 (55期)

### 公演前日の舞台にて

舞台監督「役者の皆さん、今日は仕込みに時間がかかり、シユートやバランスチェックが終わりませんでした。明日、予定どおり午前8時に集合して、声出しの後、場当たりの練習をしておいて下さい。きっかけ稽古ができるようになれば連絡をするので、すぐに舞台に来るように。明日は、正午からゲネプロをやる予定です。明日の成功のため、もう少しがんばりましょう」

### その数日前の弁護士会館の会議室にて

演出家 「それでは駄目だしを始めます。父親のA先生、『・・・』のセリフが流れています。とても大切なセリフなので流さないようにして下さい」  
「B先生、『・・・』のセリフは音楽が入るきっかけセリフになるので間違えないようにして下さい」  
役者A 「C先生、この状況だと付添人はこういう気持ちになるから、このようなトーンの発言になるんじゃないかな」  
役者B 「〇〇さん（演出家）、これはカミシモどちらにはけるんですか」  
演出家 「A先生、この父親は何歳ですか？ 仕事は何でしょう？ 土日は何をしているのでしょうか？ 母親とは普段どのような会話をしているのでしょうか？ 次回の練習までに役作りをしておいて下さい」

### その半年前の弁護士会館の会議室にて

弁護士A 「今回のテーマは子どもの手続代理人制度を取り上げてはどうか」  
弁護士B 「まだ、事例が集積されていないので、リアルにこだわる『もがれば』としては時期尚早では

ないでしょうか。少年審判における検察官関与の拡大をテーマにするのがいいと思います」  
弁護士C 「重大な問題だけど、少年法改正は待たなしで進んでいるので8月の本公演では遅すぎるかもしれないね。6月に少年法シンポを実施し、そこで30分程度のお芝居をしてはどうだろうか。本公演のテーマとしては、いじめが再び社会問題化しており、警察が介入したり、マスコミ報道により現場は混乱している、被害者の苦しみのみならず、加害者や傍観者の苦しみも取り上げて、弁護士の役割、教育機関や先生のあり方を見つめ直す内容がいいと思う」  
弁護士A 「昨年、手伝ってくれた子どもたちは今年20歳になるから、新たに子役を募集しないかね」

毎年繰り返される熱いやりとりである。

演劇「もがれた翼」は、子どもを取り巻く現実を1人でも多くの方に知ってもらうために、毎年、子どもの人権と少年法に関する特別委員会でテーマを熱く議論し、実際に起きた事件をベースに新作の脚本を書き上げ、子どもたちと実際に事件に取り組んだ弁護士らで真剣に演じており、今年で20作目を迎える。

昨年は1000人を超える観客にご覧いただいた。そして、「思ったよりも本格的だった」、「弁護士が演じているとは思えない」などのありがたい感想をたくさんいただいた。

今年も、8月31日（土）、北区赤羽会館講堂で公演する。上演時間は90分。笑いあり、涙ありで皆さんが想像されているよりも結構本格的なお芝居である。是非、ご覧いただきたい。

\*本公演の問い合わせ先：人権課 TEL.03-3581-2205